



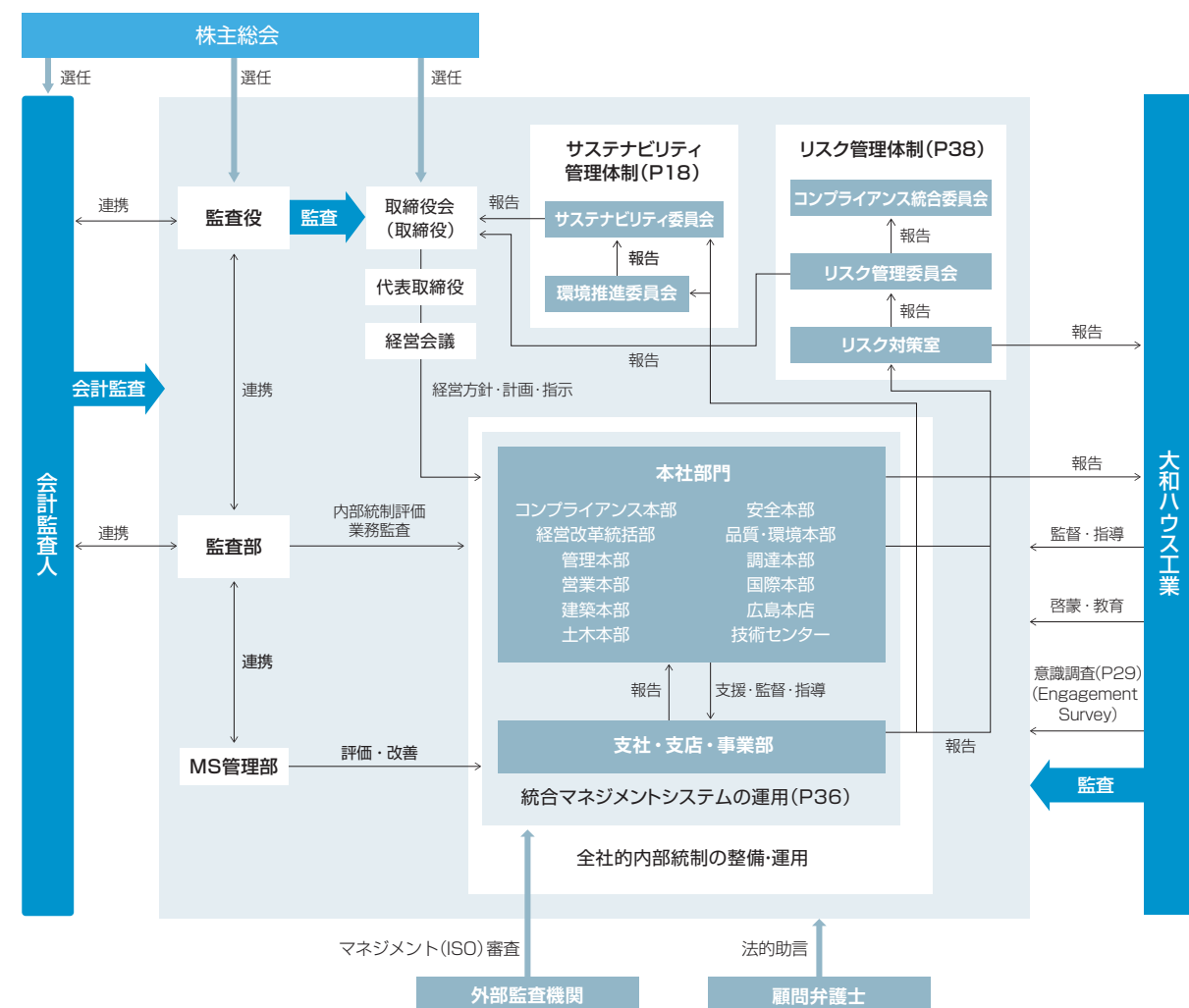
コーポレート・ガバナンス

当社のコーポレート・ガバナンスは、経営を迅速かつ公正に行うための社内機構であり、監査機関を設置し第三者視点のチェック機能により透明性の確保および経営の質の向上を目指すものです。中核となる全社的内部統制では、職務執行時における管理体制の透明性確保や、業務上のコンプライアンス、リスクマネジメント体制などを規定しています。当社では従業員全員が「経営判断の原則」、企業行動憲章および企業行動基準を正確に理解し、各々の立場で判断・行動することが大切であると考えています。具体的には、内部統制体制として、取締役会、監査役に加え、監査部監査や、弁護士など有識者を構成員に含めたコンプライアンス統合委員会を設置し、企業活動における法令遵守、公正性、倫理性を確保しています。また、リスクマネジメント体制として、各種審議会でのリスクの分析・検証・評価を行うとともに、顕現したリスク事象に対しては、リスク管理委員会、各主管本部ならびに監査部門が連携して、対応策・再発防止策の策定と実施に取り組んでいます。2023年度は、さらに企業活動の監督機能を高めるべく、大和ハウスグループ外の社外取締役を1名増員しました。引き続き、基礎を強固なものとしつつ、不透明な事業環境に動じない内部統制体制およびリスク管理体制を構築してまいります。



常務執行役員
コンプライアンス本部長
中井 雅章

コーポレート・ガバナンス体制図



ガバナンスの監視 内部統制評価と業務監査

監査部が行う業務監査では、法令および規程、全社的内部統制などに則った業務が遂行されているか、支店・事業部・グループ会社を対象に、ヒアリング、書類確認を実施しています。監査の結果、改善すべき指摘事項は、当該部門に原因と対応策(再発防止策)の提出を求めるとともに、主管部門による指導・改善につなげています。

統合マネジメントシステム

目標達成と製品・活動の適合性を確保するマネジメント

前述のガバナンス体制を踏まえ、各部門が目標達成と製品・活動の適合性を確保する経営および業務運用プロセスが「フジタマネジメントシステム」です。営業、設計、工事、調達、技術、研究など、すべての部署の業務はマネジメントの要素でもあり、それぞれ目標達成とリスク回避が必須です。そこで規格認証に沿って、部門ごと、また品質、環境、安全ごとに行われていた運用を改善し、①安全、品質、環境ほかすべての業務を扱う(マネジメント要素の統合)、②本社、支店などを含む全社一体で運用する(組織の統合)、③当社の日頃の業務プロセスに規格要求事項を当てはめる(業務の統合)の3点を実施し、運用しています。

2020年度からはマネジメントの目的も、「目標達成とリスクの回避」へと転換し、それにとまなうマニュアル類の改訂、マネジメント教育の体系化、重大な品質事故につながる施工プロセスの改善、事故報告のワークフロー化、品質施工プロセス監査、GRI/EcoVadisやグローバル・コンパクトなどESG・SDGsと連動するマネジメント要素の取り込み、目標設定・評価とマネジメントレビューの統合運用などを継続的に展開しています。

2023年度は、フロントローディング、DXなどを反映した施工プロセス再構築、国際部門マネジメントシステムの再構築などに取り組みました。

2024年度は、施工プロセスのさらなる改善、国際部門マネジメントシステムの運用本格化、グループマネジメントシステムの見直しに取り組みます。

マネジメントシステムの運用・内部監査・マネジメントレビュー

当社のマネジメントシステムは、マニュアルや要領に従い、要求事項や社会的課題からリスクと機会を見極めて目標を設定し、活動と成果を評価の上、継続的に改善しています。

2023年度はシナリオ分析・重要課題を更新したほか、環境リスク要因を更新し16業務1,873項目で、機械部業務を追加登録しました。

作業所では「基本計画書」「工事安全衛生計画書」で、安全・品質・環境リスクを抽出し、目標または管理項目として運用しています。

内部監査では「リスクの発見と対応・改善」「効果的なマネジメントシステム運用」を方針に掲げ、目標管理など8分野の重点項目を抽出し、展開しました。

「内部監査チェックリスト」は2022年度から「目標達成の課題抽出」「業務プロセス運用の確認」「課題と原因の深掘り」を重視した項目と内容に厳選、改定していますが、昨年度は3～3.2版を運用し、各部門合わせて225件(内勤137件、作業所88件)の内部監査を実施し、目標設定、業務フロー、安全管理、労働環境など、不適合16件、観察事項75件、改善提案30件を挙げ、部門ごとに内部監査報告会を実施改善しました。なお一連の「内部監査チェックリスト」改善は、「目標達成に向けた内部監査の改善とその効果」にまとめ、日本VE協会バリュー・カンファレンス2023で発表し、ベストプレゼンテーション賞を獲得しました。

2024年度は事故分析、内部監査報告会、マネジメントレビュー、業務監査結果を踏まえ、「業績達成」「成果物」「事故・災害・トラブルを回避」を内部監査方針に掲げ、安全、品質、労働環境など7項目の重点項目を抽出し、展開します。

各部門、経営層がそれぞれ実施した年2回のマネジメントレビューでは、目標達成や運用を評価し、これらの課題を踏まえて「安全」「品質」「業績」「労働環境/労働時間」「コンプライアンス」「DX」「フロントローディング/目標と進捗管理」「環境/GX」「人材育成/作業所支援」の9課題について、社長指示事項を発信し、活動に反映、展開しています。最新の課題では「人材戦略/エンゲージメントの向上」など、内容も変化しています。

このほか審査対応など、全53項目の運用課題に取り組む、全12文書を改訂または準備しました。

コーポレート・ガバナンス

■ マネジメントシステムと外部認証

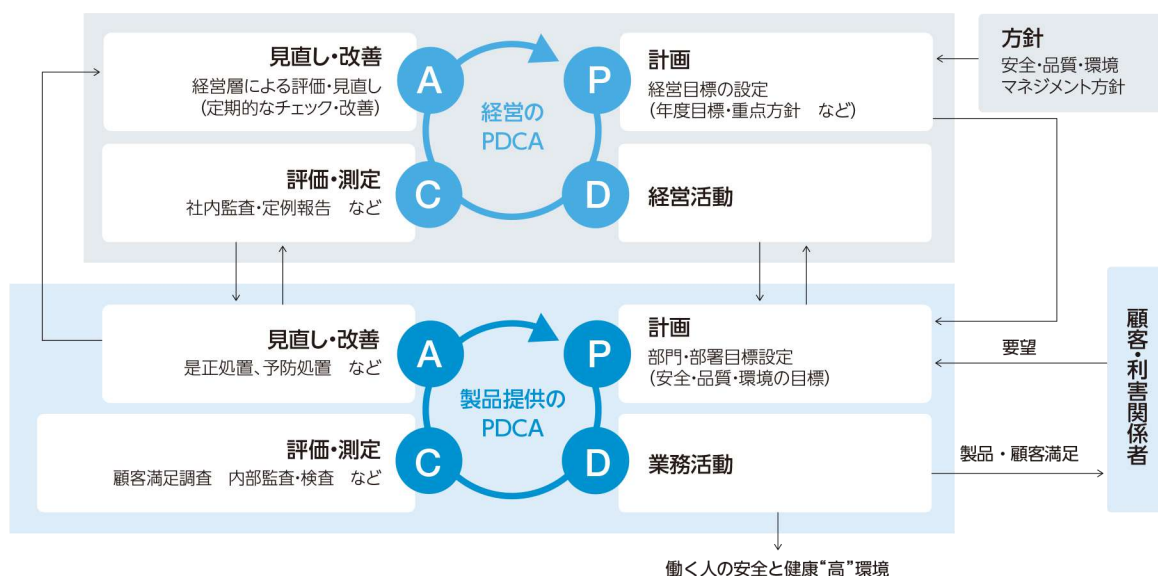
現在フジタ全部門一括で、ISO9001(品質)、ISO14001(環境)、ISO45001(安全)規格の認証登録を一般財団法人建材試験センターから受けています。同センターによるフジタのマネジメントシステム統合度判定は最高ランクで、審査も統合審査方式で行われています。このほか、関係会社2社、海外5拠点でも独自に認証登録しています。2023年度の審査では「拠点でのリスク要因の抽出」「作業所の順守評価」についての不適合2件の他、観察事項3件、推奨事項22件、日々の検出事項26件があり、それぞれ処置・再発防止策を実施しました。

■ 品質事故とマネジメント改善

2021年度に工事中の重大な品質事故が複数発生し、技術上の処置対応もさることながら、工事再開にあたっては、お客さまからも施工プロセス上の分析を踏まえた再発防止策を求められるようになりました。

これを受け2022年度から品質・環境本部に建築・土木検査業務を移管した他、品質監理部を設置し、品質施工(監理)プロセス監査を運用しています。事故分析では、関係部門・部署が連携し、技術上、施工プロセス上の課題を踏まえ、再発防止を展開しています。また、前年度は事故の即時報告運用と重大品質事故の定義を新たに設定しました。

以上の運用に加え、フロントローディング、BIM/CIMおよびDXを含めた建築および土木「施工管理要領」を2024年5月に改定しました。2024年度は「信頼される品質」をスローガンに掲げ、重大品質事故度数率0.1未満を目標に、関係部署が連携しながら、本部を含めた検査・パトロールの充実、品質・環境・物損、安全などの即時報告に取り組みます。



安全・品質・環境マネジメント方針

<https://www.fujita.co.jp/company/charter/?open=Management#Management>